文化

アーカイブ進めるカナダ人映画監督

「民藝運動フィルムアーカイブ　名も無き美を求めて 1934―2017」展は3月26日まで、無休。入場無料。グロスさんの活動に関する問い合わせは同アーカイブ制作委員会事務局☎090・9330・0035。

民芸の技と精神 後世に

カナダ人映画監督のマーティ・グロスさん(68)は民芸運動に関する貴重な映像記録を保存修復し、関係者の生々しい証言とともに後世に残そうと長年奮闘してきた。その中には民芸運動草創期のメンバーで英国人陶芸家、バーナード・リーチ(1887～1979年)が戦前の日本を撮影したフィルムも含まれる。修復とデジタル技術で鮮やかによみがえった、日本各地のものづくりの風景。グロスさんのプロジェクト「民藝運動フィルムアーカイブ」を映像と資料で紹介する初の展覧会が、東京都千代田区のATELIER MUJI(無印良品有楽町内)で開催中だ。

(黒沢綾子)

大正から昭和にかけて宗教哲学者の柳宗悦が提唱し、手仕事の日用品に宿る美に光を当てた民芸運動。陶芸家の浜田庄司や河井寛次郎らとともに運動に加わったリーチは、1934～35年に柳らと日本各地や朝鮮半島を旅し、英国から持ち込んだ16ミリカメラでその様子を撮影していた。

晩年のリーチを取材し75年、白黒の16ミリフィルムを譲り受けたグロスさんによると、撮影時間は計70分。栃木県益子町で浜田や陶工らがろくろを回す場面など、各地の窯場の光景や農村の暮らしぶりに加え、島根の和紙づくり、相撲や人形座、忍術までもが記録されていた。何より、柳らメンバーの戦前の活動をとらえた映像は貴重という。

グロスさん自身、文楽についての記録映画「冥途の飛脚」や大分の小鹿田焼の窯元を取材した「陶器を創る人々」を制作するなど、日本文化に造詣が深い。ライフワークとして、リーチのフィルム以外にも、民芸運動に関する古い映像・音声資料を収集。度々来日しては、それらの内容について職人や研究者らに聞き取り調査を行ってきた。

「今やらないと、古い技法について説明できる人がいなくなってしまう」

そう話すグロスさんは、さまざまな支援や助成を受けながら、劣化を免れない古いフィルムの修復とデジタル化も少しずつ進めてきた。さらにリーチや浜田の肉声や、現代の職人や専門家らの解説ナレーション、字幕を挿入した再編集版の制作も続けている。完成後は公開上映やDVD化のほか、地元のトロント大学と共同で、オンライン公開のデジタルアーカイブを作る計画もあるという。

なぜこれほど情熱を傾けられるのか。グロスさんは「私自身が見たいから。職人の手仕事は何度見ても飽きない」と笑う。「民芸運動が見いだした、庶民の日用品に息づく美と手仕事は、日本のみならず人類の遺産。土地の特性や制約の中で、代々受け継がれてきた技法を未来に残したい」

展覧会では、戦前戦後の作陶の様子をまとめた特別編集版(16日まで)をはじめ、活動を紹介する映像も上映。「生活必需品である器や道具を、前の世代から大切に受け継いで作り続けてきた多くの職人に、この展示をささげたい」と話している。

バーナード・リーチが1934年に撮影した益子焼の作陶風景
(写真はすべてグロスさん提供)

晩年のバーナード・リーチ(1971年)

カナダ・トロントで古いフィルムの修復作業を進めるマーティ・グロスさん

アート

おおらかな信仰のかたち 「春日大社 千年の至宝」

広大な奈良公園(奈良市)内に鎮座する春日大社は、奈良時代の初め、国家の平安と繁栄を祈り創建された。昨年、20年に1度の社殿建て替えと修理「式年造替」を行ったのを機に、国宝・重要文化財を含む伝来の神宝を一堂に公開する「春日大社千年の至宝」が東京国立博物館(台東区)で開かれている。

絵画や彫刻の中に、春日の神々の多様な姿があらわれている。普段、神社で神様の具体的な図像、とりわけお顔を拝むことは極めて稀なだけに、不思議な感覚にとらわれる。

春日大社草創の伝説を物語る「鹿島立神影図」(南北朝～室町時代)。4棟から成る本殿の第一殿にまつられる神、武甕槌命が常陸国鹿島(茨城県)から鹿に乗り、まさに春日の地に降臨するさまを表したものだ。神のそばには榊と藤を描き、藤原氏の氏神であることを示している。

画面の上、お椀を伏せたような形は御蓋山、その奥の春日山には月がかかる。「天の原ふりさけ見れば春日なる　三笠の山に出でし月かも」。遣唐使の阿倍仲麻呂が望郷の念を詠んだ、この有名な歌を思い出す。

さらに、奈良といえば鹿。奈良公園の鹿たちは武甕槌命が乗った鹿の子孫、神鹿として大切に守られてきた。春日の神々の霊験を絹本に描いた傑作絵巻「春日権現験記絵」(鎌倉後期、宮内庁三の丸尚蔵館蔵)にも神に寄り添う鹿たちがいきいきと描かれているように、ゆかりの美術品、宝物に鹿は度々登場する。本展では鹿が出てくる展示物の横には〝鹿マーク〟を表示。「ぜひ姿を探してみてください」(同館主任研究員の土屋貴裕さん)という楽しい趣向も。

春日の神々と深く関わる仏像、仏画もある。そもそもなぜ仏なのか。土屋研究員によると、古来、神の姿をあらわに表すことははばかられたが、神と仏は同体であるという神仏習合の思想から平安以降、神は仏の姿を借りてしばしば表現されたという。

「春日本迹曼荼羅」(鎌倉時代、奈良・宝山寺蔵、12日まで展示)を見ると、神と仏の対応関係が図解されている。武甕槌命は地蔵菩薩、女性である比売神は十一面観音…。「神様の姿を拝みたいという人々の思いが、こうした作品を生んだのでしょう」と土屋研究員。仏法を守護し、人々の安寧を祈る春日の神々。おおらかな信仰のかたちが見えてくる。

3月12日まで、月曜休。展示替えあり。一般1600円。問い合わせは☎03・5777・8600。

(黒沢綾子)

「鹿島立神影図」南北朝～室町時代・14～15世紀　春日大社蔵

「春日権現験記絵(春日本)巻十二(部分)」江戸時代・文化4(1807)年　春日大社蔵。原本は鎌倉時代の作で、春日本は松平定信の指示で制作された。牛車には春日の神が化身した地蔵菩薩が乗っている

展覧会ガイド

展覧会	会期・休館	館名	内容	料金	最寄り駅・電話
endless 山田正亮の絵画	～2/12 月	東京国立近代美術館	近年欧米で再注目される画家、初の包括的個展	1000	竹橋 03・5777・8600
粟津則雄コレクション展 〝思考する眼〟の向こうに	～2/12 月	練馬区立美術館	評論家が寄贈したルドン、ルオーの版画など約50点	300	中村橋 03・3577・1821
マリメッコ展	～2/12 無休	Bunkamura ザ・ミュージアム	フィンランド発ブランド、その歩みとデザイン	1400	渋谷 03・5777・8600
染色家　岡村吉右衛門 ―祈りの徴し―	～2/19 火	多摩美術大学美術館	独自の技と表現極めた染色家、型染め版画約230点	300	多摩センター 042・357・1251
世界遺産　ラスコー展	～2/19 月	国立科学博物館	クロマニョン人が残した洞窟壁画の謎に迫る	1600	上野 03・5777・8600
ガラス絵 幻惑の200年史	～2/26 月	府中市美術館	江戸中期の長崎に伝わったガラス絵の歴史たどる	700	東府中 03・5777・8600
ロダンと近代日本彫刻	～3/12 無休	小平市平櫛田中彫刻美術館	ロダン没後100年、日本への影響を再検証する	800	一橋学園 042・341・0098
超・日本刀入門	～3/20 月	静嘉堂文庫美術館	所蔵の国宝・重要文化財の刀剣9件がそろい踏み	1000	二子玉川 03・5777・8600
とことん見せます! 富士美の西洋絵画	～3/20 月	東京富士美術館	開館史上最大級、275点を一挙公開する	800	八王子 042・691・4511
1950年代の日本美術	～3/26 月	神奈川県立近代美術館葉山	戦後の出発点から、美術家らの動向を見つめ直す	1200	逗子 046・875・2800
ティツィアーノとヴェネツィア派展	～4/2 月	東京都美術館	日本初公開の「ダナエ」、傑作「フローラ」も	1600	上野 03・5777・8600
清宮質文と版画の魅力	～4/2 月	群馬県立館林美術館	静謐で詩的な清宮作品を中心に奥深い版画を紹介	410	多々良 0276・72・8188
並河靖之七宝展	～4/9 第2・4水曜	東京都庭園美術館	有線七宝で頂点を極めた七宝家、初の回顧展	1100	白金台 03・5777・8600
オルセーのナビ派展	～5/21 月	三菱一号館美術館	美の〝預言者〟と称した若き芸術家たちに注目	1700	二重橋前 03・5777・8600

※休館日が祝日と重なる場合は開館し、翌日が休館になることもあります。念のためにご確認を

女性画家5人が表現「自然」の多様性 新宿でグループ展

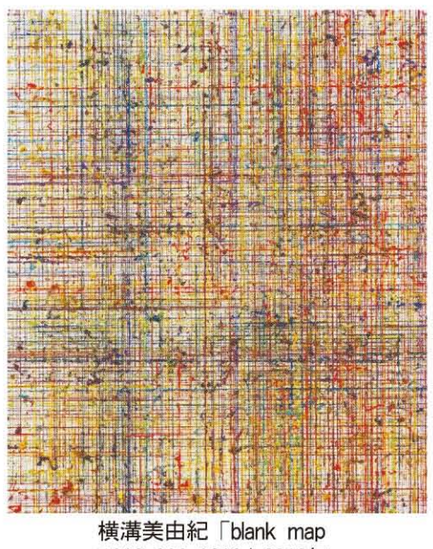
国内外の美術館で発表している女性画家5人にスポットを当てたグループ展「クインテットⅢ　五つ星の作家たち」が、東京・新宿の損保ジャパン日本興亜美術館で開かれている。3回目となる今回のテーマは「自然」で、花や山などに向き合った作品を制作してきた40代半ばの作家が選ばれた。

ユリやチューリップといった花そのものに焦点を当て、官能的で花を超えた存在へと昇華させた木村佳代子。青い背景にツバキなどの赤い花が鮮やかに浮かび上がり、晴れ晴れと平面的に描いた橋本トモコ。油絵の具に蜜蠟を混ぜた独特の色彩の中に、静かに潜むように木々の形を刻んだ川城夏未。対照的なのは堀由樹子の作品。木々や山そのものを激しいタッチで描出。樹木が呼吸し揺れ動くようで、躍動感と生命力がみなぎる。

自然の感じ方や捉え方はそれぞれで、まったく表現が異なる。有機的な線で構成された具象的な絵画の中で、唯一、横溝美由紀の作品は抽象画だ。大学では彫刻を学び、過去に空間全体を使ったインスタレーションを試みてきた経験を持つ。技法は個性的で、キャンバス上に油絵の具をつけた糸を張り、指ではじきその直線の跡を残していく。縦横の無数の線が重なり無限の小さな面が構成される。黄色や赤の明るい光が画面から発せられ、光の存在を強く意識させる。

それぞれの個性が際立ち多様性を見ることができる。本展出品者は過去にさまざまな賞の受賞歴がある。近年の美術コンクールでは女性受賞者が増え、活躍が著しい。そんな時代の一断面を見せてくれる。約70点を展示。19日まで、月曜休、一般600円。問い合わせは☎03・5777・8600。

(渋沢和彦)



横溝美由紀「blank map F008.026.2016」2016年

話の肖像画

トラベルライター　兼高(かねたか) かおる(88)　4

日本の良さが失われてゆく

日本人のマナーは超一流、勤勉で美的センスにも優れている。日本の伝統文化は、世界に誇れるものです。世界各国を回ったことで私はそのことを改めて認識することができました。例えば、お茶を飲むとき、もう片方の手をカップの底に添えるだけでも外国人からは「きれいですね」と感心されるのですよ。日本には外国にはない、どこへ出しても恥ずかしくないものがあるんだって。日本人はそのことにもっと誇りを持っていいと思いますね。

〈番組のナレーションを担当した兼高さんの日本語は、とても丁寧で上品だった〉

よくそう言ってくださるのですが、私は意識したことがありません。たぶん、時代が良かったのでしょう。私の場合、家はうるさくなかったけど、世間がうるさかった。いろんな方が、社会が厳しくしつけてくれましたから自然にそうなったのです。お年寄りの前では頭を下げなさい、障子やふすまは立ったまま開けてはいけません…とか。昔の日本人には体に染みついた、当たり前のことですよね。

でも今は、日本の良さを日本人が忘れている気がしてなりません。特に若い人たちのマナーには眉をひそめたくなるときがありますね。家庭もダメ、教育もダメ。とりわけ家庭が大事です。日本人の良さは家庭で培われるものですから。

言葉も、訳が分からないカタカナ表記や、私が若いころには聞いたことがないようななじみのない英語が増えています。若い人たちはボキャブラリーも表現力も十分にありません。英語を勉強する前にしっかりと日本語を勉強すべきです。大事なのは何語で話すかではなく、「何を話すか」。会話にはその人の知識や教養が出ますからね。

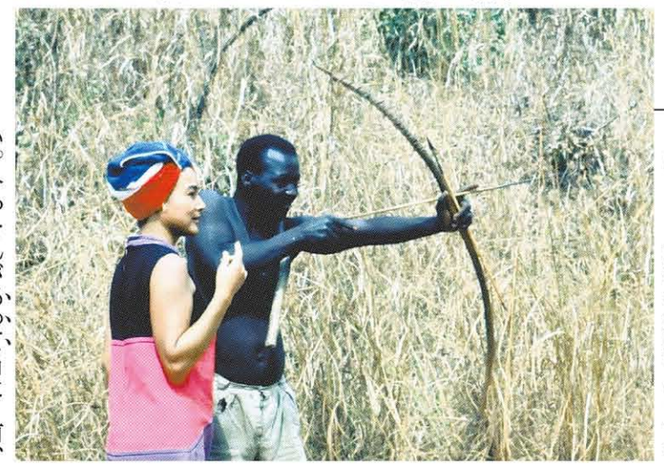
〈最近の日本の若者は、チャレンジや冒険を嫌い、安定志向だけが強い。海外旅行に行きたがらず、留学生も減っている〉

日本人としての基本は衣食住にありますが、豊かになりすぎたのでしょうか。今やそれがあって当たり前、大切さを忘れてしまっているのです。だから、日本でこんなに便利で快適な生活をしているのに、なぜ、わざわざ苦労をしに外国へ行かねばならないのかと思うのでしょうね。インターネットさえあれば、日本も外国もない、すべて事足りるというのですか？　それでは「自分を育てる」ことはできません。日本人の知的好奇心はどこへ行ってしまったのでしょうか？　資源もない島国で、いざ地球上に問題が起きたとき、いったい誰が助けてくれるのですか？

最近は日本の国力が落ちているような気がします。世の中が「平等」ということを言い過ぎることが原因の一つかもしれません。優秀な人を伸ばさねば国力は落ちてゆきます。みんな手をつないで一緒にゴールインなんて、まともな顔をしていう人の気がしれません、おかしいでしょ。

富についても同様だと思います。富があるからこそすぐれた芸術や文化が生まれた側面もある。経済は人の生活を左右する、アメリカも経済で発展してきたのです。トランプ氏(現大統領)の豪華な自宅を訪問した安倍晋三首相はどう感じたでしょうね。

私は、いわゆる貧乏旅行にも賛成できないのです。だって日本人は貧乏じゃないでしょ。せっかく海外へ行くのならお金がなければ見られない芸術を見る、おいしいものを食べる、その経験が「宝物」になります。

(聞き手　喜多由浩)

西アフリカのベナンで―昭和40年代